

令和2年1月28日 会頭記者会見 発言要旨

時事の話題

■2020年の抱負

新型コロナウイルスの拡大により、サービス業を中心とする経済への影響が大きくなることを懸念している。早期に終息することを願っている。

本所では、若手人材の育成やスタートアップ支援のための基金の創設や、「スタートアップ・エコシステム拠点都市」の指定に向けた京阪神共同の取組など、新たな時代を見据えた事業に積極的に取り組んでいくこととしている。また、2021年度中に実現される文化庁の京都移転に向けて、円滑な移転や効果的な事業展開を具体化させていきたい。

本年3月をもって塚本さんに会頭職をバトンタッチすることとなるが、完成した京都経済センターを基盤として交流と協働を拡大させ、「夢ある持続可能都市・京都」の実現を目指して、残りの期間もしっかりと責務を果たしていきたいと考えている。

京都商工会議所の動き

■産業人材育成のための基金創設について

昨年11月に策定した「京商ビジョン FUTURE」に基づき取り組むこととしている、京都の将来を担う産業人材を育成するための基金の創設と、基金を活用した事業について発表させていただく。

基金の名称は、「京商知恵基金」としている。本所を起点にオール京都の取り組みへと拡大している「知恵産業」を、次世代へつなげるための基金としたいという思いを込めている。人口が減少する中で、京都の未来を担う産業人材の育成は、本所だけでなく地域をあげて取り組むべき課題だ。次世代の産業と人材の育成拠点である京都経済センターの機能を最大限に活用し、まずは本所が先導するかたちでスタートさせたいと考えている。

「基金の規模・スキーム」については、本所が2億円を拠出し、私の私財1億円を合わせて当初3億円で基金を造成し、将来的には5億円規模まで増やしていきたいと考えている。基金は、本所会計に特別会計を設けて管理することとし、他の経済団体や企業、行政等にも広く参画を呼びかける予定だ。なお、特別会計の設置については、本年3月の常議員会・議員総会にて、来年度予算案とあわせて提案し、正式に決定いただくこととなる。

基金を活用し実施する「事業の名称」については、知恵の担い手となるアントレプレナーシップにあふれた若い起業家を支援するという趣旨から、「京都・知恵アントレプレナー支援プログラム」、略称「K-CAP」という事業名で展開していく。

「趣旨」については、京都経済センターの始動を契機に、本所として地域経済の未来を担う起業家や萌芽的ビジネス、地域発ベンチャー、スタートアップ等を集中的に支援するために創設することとしている。

「支援対象」については、京都産業の将来を担う若手起業家として、35歳以下の起業家・経営者と、起業をめざす学生や留学生等をターゲットに考えている。若者や若い経営者が夢を描き、夢をかたちにするための支援を、本基金をもとに展開していきたい。

「事業期間」については、若手起業家の育成等に特化し、集中的に支援するために、来年度から2029年度までの10年間を設定している。ファンドではないため、基本的には10年間で基金を計画的に取り崩し、事業に活用していく予定だ。年間では、平均で約3,000万円規模の事業を行っていくこととなる。なお、基金創設にあたる準備は、今年度から着手していく。

インキュベーションプログラムの目玉となる「京都起業家アワード」について、起業後5年以内で35歳以下の全国の若手起業家を対象としており、地域への波及効果を考え、京都を拠点にビジネスを展開することを条件としている。アワードの実施体制や審査項目等の詳細は、現在検討を進めているが、京都の経済団体や産業支援機関、大学等には推薦等の協力もいただきながら、オール京都体制で実施したいと考えている。賞金総額は500万円を予定しており、来年度から実施し、全国の優秀な起業家を京都に呼び込む起爆剤としたいと考えている。その他、「Lunch & Learn Meeting」や「京商イブニングピッチ」、「学生起業家発掘・育成プログラム」等の事業についても、私が理事長を兼務する「京都知恵産業創造の森」と連携しながら実施をしていく予定だ。

国の「スタートアップ・エコシステム拠点都市」の指定実現に向けて、オール京都の推進協議会が設立され、京都の関係機関や京阪神の連携による取り組みを強化することとしている。本基金による取り組みは、こうした動きとも相乗効果を発揮するものであり、オール京都でスタートアップ・エコシステムを中心を担う若い起業家、産業人材の育成を進めていきたい。

特に、ボトムアップ型で企業等を育成することが重要である。京都には多くの大学やベンチャー型企業が存在していることから、大学と産業界の連携を後押しし、情報通信やバイオ、環境などの重点分野における人材育成の基盤整備も重要になってくるのではないかと考えている。

■第11回知恵ビジネスプランコンテスト認定企業について

11回目を迎える知恵ビジネスプランコンテストにおいて、認定プランを決定した。今年度の知恵ビジネスプランコンテストでは、多種多様な業種から57件の応募があり、審査を経て6件の事業プランを認定した。今回の6件が加わり、本所が認定したプランの総数は65件となる。

今回は、製造業や小売、飲食、農業など幅広く、知恵ビジネスの多様性が感じられる企業を認定した。いずれの企業も他社には真似のできない独自の強みを発揮し、新たな顧客・市場を創造できる可能性が評価された。

例えば、関西巻取箔工業(株)は、従来、ミリ単位の制御が難しくロットごとに厚さや色にバラつきがでる顔料インクの熱転写技術において、1/1000ミリ単位で厚みを制御する技術を開発した。ドライコーティングにより、液体インクにある有毒な物質を発生させない安全性を武器に、環境への配慮や高精度が求められる自動車や医療機器、化粧品業界などへ、ワールドワイドに本格展開を図るプランである。

また、(株)京都設備は、これまで培ってきた空調設備のノウハウと施工現場で蓄積された課題やお客様のニーズを汲み取り、景観に調和する和紙素材のエアコン室外機カバーを開発した。京都をはじめ全国的に景観に対する意識が高まる中で、宿泊施設や町家などをターゲットに景観づくりを提案していくプランである。

これら認定企業の表彰とプランの発表は3月6日(金)に開催する「京都・知恵ビジネス大交流会2020」で行う。

記者からの質問事項

■人材育成基金について、私財 1 億円を投じるとのことだが、そこに込めた思いをお聞かせいただきたい。

昨年 3 月に完成した京都経済センターは、京都経済百年の計として、次世代の京都経済を担う産業人材を育てるための拠点として大きな意味を持っている。本所は経済センターの主要な入居団体として、その模範となるような取組を積極的に進めていく必要性を強く感じていた。また、会頭就任時から知恵産業の創造・育成に向けて取り組んできたが、これをさらに推し進めるためには、次世代の人材育成が不可欠だ。こうした実績を次期会頭となる塚本さんに引き継いでいただくためにも、私が在任中にしっかりと形にしておきたいという強い思いから、私財を投じるに至った。

産業人材の育成に向けて、3 億円という額が多いか少ないかはわからないが、事業の進捗に合わせて他の産業支援機関や行政などにも協力を募り、最大で 5 億円程度まで増やしていきたいと考えている。

■人材育成基金の支援の対象が 35 歳以下となっているが、狙いを伺いたい。

事業によっては 35 歳を超える方を対象とする場合もあるかもしれないが、基本的には次世代の京都経済を担っていくような、起業を志す学生や若い人材に頑張ってもらいたいという思いで 35 歳以下に絞り込んだ。

■企業や他の産業支援機関でもアクセラレーションプログラムなど多様な取組を行っているが、京商が人材育成基金に取り組む意義はどこにあるのか。

京都経済を担う本所として、将来の京都経済の発展を見据えて、人材育成や新産業の創出に向けて責任をもって役割を果たす必要があると強く感じており、今回の基金を創設することとした。

■人材育成基金では、既存企業の若手経営者等ではなく新規創業や創業間もない企業を主な対象としているが、どのような狙いを持っているのか。

これから創業する、あるいは創業間もない企業は資金力に乏しく、ビジネスプランが優れていても資金不足に陥りがちである。そのような若者やスタートアップ企業に対して直接的に資金確保につながる支援を行うことで、次世代を担うビジネスの芽を大きく育てていきたいと考えている。ファンドではないため、投資・支援に対する見返りを求めるようなことはない。

京都以外の方や記者の方などから、近年は京都ではベンチャー企業が育っていないのではないかと指摘を受けており、悔しい思いを持っていた。世界的な大企業に成長した京都型ベンチャー企業のように、京都が再びベンチャーの都となるような流れを作っていきたい。

■中国で発生した新型コロナウイルスの影響について懸念が広がっているが、京都経済への影響についてどのように捉えているか。

具体的な影響についてはまだはっきりと把握できていないが、第一にはサービス業を中心に大きな影響が出ることを懸念している。またその先には製造業への悪影響も出てくることが予想されており、しっかりと対応しておくことが重要だと考えている。特に今年は東京オリンピックを控える重要な年であり、日本だけでなく世界的な課題として対策に取り組んでほしい。

■新型コロナウイルスの終息が見えない中で、何か対策や支援など具体的なことが決まっていれば伺いたい。

まずは状況に応じて各企業がしっかりと対策することが重要だと考えている。まだ具体的な状況や影響がはっきりとしておらず、推移を見守りながら各企業の求めに応じて必要な措置を講じていきたいと考えている。

以 上

定例会頭記者会見



日時：令和2年1月28日(火)14:00～14:30

会場：京都商工会議所 7-F 会議室
(京都経済センター7階)

1. 産業人材育成のための基金創設について . . . 資料①

2. 第11回知恵ビジネスプランコンテスト認定企業について . . . 資料②

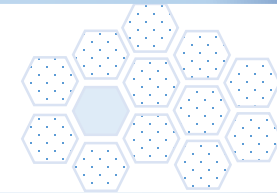
以 上



産業人材育成のための基金創設について

1 基金の名称

京商知恵基金



2 基金の規模・スキーム

- 当初3億円規模で造成し、将来的には5億円規模を目指す。
- 本所だけでなく、他の経済団体や企業、行政等に広く基金への参画を依頼する。

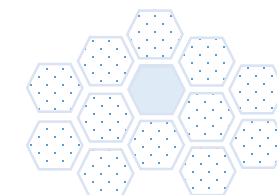
3 事業の名称

京都・知恵アントレプレナー支援プログラム

Kyoto **C**hie-entrepreneur **A**ssistance **P**rogram

事業の略称

K-CAP

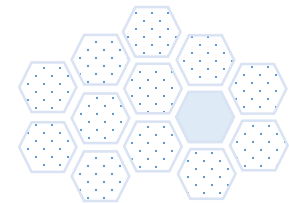


4 基金の趣旨

本所ビジョン「FUTURE」に基づき、企業等が協力する基金を財源として、地域経済の未来を担う起業家や萌芽的ビジネス、地域発ベンチャー、スタートアップ等を集中的に支援する。

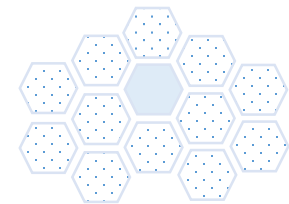
5 支援対象

- ① 京都産業の将来を担う若手起業家(U-35)
- ② 起業をめざす学生や留学生等



6 事業期間

2020年度から2029年度末までの10年間
(基金創設にあたる準備等は今年度から着手)



- ① 社会の変化を捉えて、新たな価値創造や革新的なビジネスに挑戦する
若手起業家の育成 とビジネスの実現・成長への支援を両輪に事業を展開する。
- ② 起業へのチャレンジの裾野を広げるための機運醸成事業や、「起業のまち・京都」
「ベンチャーの都・京都」を国内外に発信する表彰・コンテスト事業を実施する。

K-CAP

「京都起業家アワード」(仮称)の実施

全国の起業家の目標となり、「ベンチャーの都・京都」を世界に発信する賞として実施する。

若手起業家の育成

起業家育成に特化した人材育成プログラム

課題発見・解決力

起業・経営知識

提案力・コミュニケーション力

人格・倫理・リーダーシップ

京商
知恵基金

起業・創業、スタートアップ支援

特別支援チームによる重点支援

ビジネスアイデア発想

ビジネスモデル構想

事業計画・資金調達

専門家活用

企業経営者や国内外
の起業家との

交流

起業を目指す学生・留学生への支援

機運醸成

発掘・育成

表彰・選抜

経済団体や産業
支援機関、大学等との

連携

※事業名称等は仮称です

アントレプレナーシップや
起業への機運醸成起業予備軍の
掘り起こし起業の夢を実現し大きく育てる
インキュベーションプログラム
アクセラレーション
プログラム

情報提供

育成プログラム

投資連携・交流
コンテスト表彰


K-CAP K-CAP ライブラリー

経営者・起業家講演会の開催(映像アーカイブ)


起業家の活動等に関する情報の収集・発信

定期刊行物の発行、ウェブサイト・SNSの開設

K-CAP 大学等での出張相談会

起業家フォーラム 各種セミナー・講演会 

K-CAP 学生起業家発掘・育成プログラム

U-35 起業家育成プログラム アクセラレータープログラム 

K-CAP Lunch & Learn Meeting

京商フューチャーセッション K-CAP 2021年秋
開始予定
(プログラム検討)

K-CAP 京商イブニングピッチ

知恵産業オープンイノベーションピッチ 各種交流会 KOIN Bar 

K-CAP

京都起業家アワード

学生ビジネスプランコンテスト 

※事業名称等は仮称です



全国の起業家の目標となる

京都起業家アワード

起業の夢を実現し大きく育てる
インキュベーションプログラム

- ・ 京都を拠点に革新的なビジネスに挑戦する起業家を発掘・表彰する。
- ・ 表彰者のさらなる成長に向けた重点支援を展開する。

対象

起業後5年以内かつ京都を拠点にビジネスを展開※する若手起業家(U-35)

※展開予定を含む

特徴

1. 次代を担う若手起業家の発掘

革新的なビジネスで「社会を変革する」、「社会課題を解決する」、「世界で勝負する」といった意欲あふれる若手起業家をオール京都体制で発掘、支援する。

2. 広く全国の起業家が参加し競う

京都の起業家だけでなく、京都の多様な資源を活用したビジネスを展開する起業家や将来京都に活動拠点を設ける予定の起業家等も応募できる。

3. さらなる成長への舞台となる

起業家としてのキャリアアップやビジネスの成長に役立つ支援を活用できるとともに、京都企業・経営者のアドバイスやバックアップ等を得られる。

実施イメージ



特典

1. **賞金総額 500万円** (大賞 300万円 ほか 優秀賞、奨励賞 等)
2. **成長への重点支援** (ピッチイベント参加、プロモーション、金融支援・事業提携支援等)

※事業名称等は仮称です



学生や若手起業家とメンター起業家がビジネスを磨く

Lunch & Learn Meeting

起業の夢を実現し大きく育てる
インキュベーションプログラム

- ・ U-30の起業家を対象に、先輩起業家や著名経営者を囲むビジネス塾として開講。
- ・ 起業に関心を持つ学生・社会人と先輩起業家等がビジネスに関する意見交換を通じて相互啓発を行う。

ベンチャー・スタートアップ企業と大企業が出会い成長する

京商イブニングピッチ

起業の夢を実現し大きく育てる
インキュベーションプログラム

- ・ ベンチャーやスタートアップ企業の経営者が、ビジネスアイデア・プランを大手企業、ベンチャーキャピタル、金融機関等にプレゼンする機会を提供。
- ・ デロイトトーマツ・ベンチャーサポート(株)と連携し、多分野の成長企業を発掘し、事業の具体化、ビジネスパートナーとのマッチング等を支援する。

起業の夢を実現する

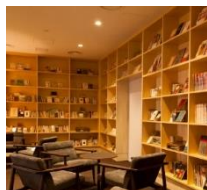
学生起業家発掘・育成プログラム

起業予備軍の
掘り起こし

- ・ 学生を対象に、起業への意欲あふれる人材や事業化が期待できるアイデアを発掘・支援するためのコンテストを行う。
- ・ 起業の実現に向けて、先輩起業家や経営者、金融機関や企業のイノベーション部門担当者等との交流・協業を促進するプログラムを提供する。

※事業名称等は仮称です

活躍する起業家や京都を代表する経営者に触れる・学ぶ



K-CAP ライブラリー

アントレプレナーシップや
起業への機運醸成

- ・ 起業やアントレプレナーシップへの関心を高める多様なコンテンツを蓄積・発信する。
- ・ 時代を超えて語り継がれる、京都を代表する偉大な経営者の物語や経営哲学に学び、ビジネスをはじめ様々な分野で活用できる「知恵のアーカイブ」を構築する。

コンテンツ

1. 著名経営者・起業家による講演

若者、学生等を対象に、KOINや大学等で著名な経営者・起業家の講演会を開催するとともに、収録した講演映像をライブラリーのコンテンツとして蓄積・アーカイブする。

2. レジェンド経営者の講演映像等の公開・配架

- (1) 京都を代表する経営者の貴重な講演映像をメディア・ライブラリーとして公開する。
- (2) 京都企業の創業者に関する資料や企業研究等に役立つ企業概要・会社案内等を収集し、配架・貸出する。

3. 定期刊行物・ウェブサイト・SNS等での情報発信

K-CAPに関する情報やライブラリーのコンテンツ、京都で活躍する起業家、スタートアップ企業等の情報を、ウェブサイトなど多様な媒体・ツールで発信する。

第11回 知恵ビジネスプランコンテスト 結果報告

■概要

知恵ビジネスの創出・育成を図るため、京都府内の中小企業を対象に、京都の特性または企業独自の強みを活かし、新たな知恵によって独自の技術や商品・サービス、あるいはビジネスモデルを開発し、“顧客創造”を実現するビジネスプランを認定した。

■公募期間 令和元年9月17日～10月17日

■応募件数 57件

■審査

知恵の「巧み（独自性、優位性）」、知恵の「インパクト（顧客創造性、社会性）」、「実現性（成長性、実行力、計画性）」の観点および本所の経営支援による事業の成長性を勘案し、書面審査、実地調査、面接審査を経て最終決定。

■認定 6プラン（認定プラン 累計65件）

■支援

認定したプランの実行・実現に向けて、本所経営支援員が、各種専門家等と連携しながら、経営戦略・マーケティング、資金調達、広報、マッチング等の支援活動を実施する。

■表彰式

3月6日に開催する「京都・知恵ビジネス大交流会2020」内で表彰式・プレゼン発表を実施。詳細は別紙の通り。

■認定プラン（企業名50音順・敬称略）

1. 3つの知恵を活かした五十家の“漬け野菜”で通販市場の開拓

（株）五十家コーポレーション 代表取締役 五十棲 新也 <飲食店・食品加工販売>

飲食店運営で培った自社農園・地場契約農家の仕入体制と、独自の調理法により開発した「漬け野菜」をギフト・物販用の商品として開発。野菜本来の味や栄養素を損なうことなく、野菜それぞれの個性に応じた調味を施し、添加物や塩分を気にする健康志向な顧客層に新たな料理ジャンルとして提案。小売店やネット通販などを通じて、店舗への来店客をはじめ、同社の顧客・ファン層を拡大する。



2. 試着や試乗があるように、建物には「タメシダテ」を。

（有）一級建築士事務所 ターボ設計 代表取締役 山領 正 <建築設計>

建築設計とグループ内のITノウハウを掛け合わせ、AR技術を使った建築前提案システムを展開。スマートフォンやタブレットを建築現場でかざすことで、完成後の内外観の3Dイメージを実寸大で体感でき、施主と建設業者間のイメージ共有を促進させ、着工後のトラブルを未然に防ぐことが期待される。今後は、中小の建設会社、工務店、不動産会社に対して、新たな営業提案ツールとして拡販を図る。



3. 家具や雑貨のディスプレイで不動産のプロモーションサポート

(株)イノブ 代表取締役 井上 勝 <雑貨小売・店舗住宅デザイン>

雑貨や家具の仕入ネットワークとディスプレイ、ライフスタイル提案のノウハウを活かし、不動産に生活空間を演出するホームステージング市場に進出。京都を中心に女性から高い支持を得ているブランド力や情報発信力をもとに、不動産業者などに対して付加価値の高いサービスを提供する。ホームステージング現場が新たなショールームともなり、本業である雑貨店やリノベーション事業との相乗効果も狙う。



4. 顔料箔。それは、インクを使わない印刷

関西巻取箔工業(株) 代表取締役 久保 武久 <熱転写用顔料箔製造>

1/1000mm 単位でインクの厚みを制御し、均一に塗工された顔料箔を開発。有毒な VOC(揮発性有機化合物)が発生しない熱転写等のドライコーティング製品として、製造現場の危険リスクや環境負荷の解消を促進するとともに、高精度を求める自動車・家電製品や化粧品業界等へ本格展開する。また、各地の印刷系企業と協業し、ワールドワイドな需要にも対応できる体制の構築を目指す。



5. おりがみ文化で街ごと染める和紙カバーを用いた景観づくり事業

(株)京都設備 代表取締役 倉本 和幸 <空調工事・メンテナンス>

空調設備のノウハウと施工現場で得た潜在ニーズを基に、景観に調和する和紙素材のエアコン室外機のカバーを開発。排熱と撥水、難燃、強度を考慮した機能性、和紙製による軽さ・メンテナンスのしやすさ、日本の景観に沿うデザイン性を実現した。全国的に景観意識が高まる中で、景観保護エリアの店舗・商店街・宿泊施設や、町家、集落、寺社、文化財などをターゲットに「景観づくり」を提案していく。



6. 京都産九条葱の未利用部位(蕾)を使った商品開発と素材供給

農業生産法人 (株)西陣屋 代表取締役 田中 武史 <京野菜の生産・販売>

九条葱専門生産者の専門性と地域のネットワークを活かし、九条葱の蕾(ネギ坊主)の商品化と食品メーカーへの卸売展開を図る。葱の蕾は、6月頃に一齐に着蕾するが葱の収穫の邪魔になるため、これまで多くが放置・廃棄されてきた。九条葱をはじめ京野菜への人気が高まっている中、地元同業者を巻き込み未利用資源である蕾を京都の新たな名産として市場開拓を図る。



以上